浜松南高新聞
発行所 県立浜松南高校新聞部 静岡県浜松市米津町
印刷 浜松共同印刷株式会社

メガネの 吉田屋
浜松駅前広小路 53－1188代
浜松郵便局前 浜交ビル 54－0181代

主体性の回復

意欲満々の生徒会

文化展成功を目指して

小笠原会長を中心とする今期生徒会が発足され、早三ケ月が過ぎた。様々な行事をしていこうとして、生徒会が最も必要としているのは、全校生徒の協力である

前期生徒会本部が発足して、はや三ケ月が過ぎた。今期生徒会は小笠原会長を中心として、スクラムを組んでいる。既に、対面式、新入生歓迎会、予算の編成などに取り組んできた。来学期早々に文化展を控え、文化展を成功させるため、計画、準備を推し進めているが、いかにして、全校生徒の協力を得、盛り上げるかが、当面の問題だろう。

以下は会長、副会長、書記、会計、及び各常任委員の抱負である。

〈小笠原会長〉

我々は、しばしばそこに行事があるかをそれをするといったように、物事をなりゆき、あるいは状勢で処理しがちである。そこで、すべての活動において、綿密な計画と積極的な態度で臨し、必ず何かしら成果を残し、将来の生徒会のために、より多くの資料を提供できることを目標にしております。そういった意味において、本年度前期の生徒会は、今までにないタイプ、また二つの転換を志向して、我々の生徒会を作り上げて行こうと思います。乞、協力を。

〈飯田明弘副会長〉

諸君、諸君は前期生徒会に何を期待するか。」という問いかけに答えてくれる人がいたら、たいへんうれしい。とかく単年の任期で、さらに購入物のチェック等々に月並みな行動を、例年どおり行なって終わることが多い。だれもが、「よい生徒会に」と願いながらも、なかなか新しい行動に移せないのである。そんな時、思うまま、感じるままの諸君の一言が役員の活力となる。

実行は我々にまかせて、積極的な発言を、そして真の生徒会を。

〈加藤孝子副会長〉

前期生徒会活動が始まり、早三ケ月を迎えようとしています。四月には大行事の一つとして、新入生歓迎会が催され、成功を治めました。これからも、大きな行事が幾つかあります。どんな行事も大切だけれど、一番重視されているのが文化展です。早めに計画を立て運営がスムーズにいくよう努力したいと思います。

〈会計〉

会計の仕事は地味で、ぬたたないものですが、たいへん多忙でいわば、生徒会の大蔵大臣的存在なのであります。そのほんの金でもきい私のために今年度より電気計算機を購入し、より早く正確な計算に務めていますが会計は計算ばかりやればよいのか、というとそうではなく、予算案の作成、あるいは助成金の内訳の時などは、この野辺に美しく咲きぬ。この野辺に美しく咲きぬ、日を受けて　美しく咲きぬ"。野辺の白百合を見て、即詩人になれる者は少ない。しかし白百合と相対した時、"美しく咲きぬ"という感動は、皆感じるであろう。その感動が、心の外に出て詩となる歌となる者もいる。じっとその内で、鳴り響いている感動もある。唄者もちろん、"鳴の白百合、美しく咲きぬ"の音を表現しているのである。我々の回りをぐるりと見渡してみよう。そこには自然のつくった美が存在している。我々の愛し感動しうる美がある。道ばたの花を手にとって、その花の清らかさに感動の鐘を鳴り響かせるべきだ。自然は、美を語りかけ、人間が美の追求を怠めたべきだ。自然は、美を語りかけ、人間が美の追求を怠めたべきだ。自然は、美を語りかけ、人間が美の追求を怠めた

新風吹き込む

躍進目指す
情熱を傾けて

本年度の人事異動により本校に赴任された十一人の先生方（うち講師四人）と教外指導員の方一人の合わせて十二人の先生方に多数の質問を試みた。それらを含めて先生方の紹介をしてゆこう。

▼浅井弘一先生は浜北市に住んでおられる。担当教科は生物。以前は浜名高校にいらした。南校の印象は風がたいへん強く、生徒に素直で真面目ということである。好きな言葉は「遅咲き小さきままに形あり大井川原の限りなき石」である。趣味は紙・本工竹細工。先生になられたのは山間僻地へ行きたかったからということ。ご自分の性格については、融通がきかなくて真面目だそうである。

▼金子朔博先生は鳴江町に住んでおられる。以前は浜松商業高校にいらした。先生のおっしゃるには、ここの生徒は前任校の生徒と同じように従順でおとなしいそうだ。担当教科は英語。性格は神経質であれこれ考えるのが先で、実行力が伴わないということである。がたいへん親しみやすい先生で、どの質問にもていねいに答えていただいた。好きな言葉は「なんじ自身を知れ」趣味は古本屋で本を眺めて内容を想像することだそうだ。

▼立石利子先生は天竜町に住んでおられる。以前は浜松商業高校にいらした。担当教科は国語。南校について「頑なな素直な生徒が多いので、教師にとっては楽な学校だ」という。欲を言えば全体にもう少し活気があってもいいように思います」と話してくださった。

新任の諸先生方

▼村上清先生は文名町に住んでおられる。以前は引佐高校にいらした。担当教科は保健体育。南校の印象については、良識ある生徒が多い。しかし校訓の実践にやや物足りなさを感じているということである。ご自分の性格は幸運強い方だそうだ。趣味は盆栽であるが手入れをして写真をとったりなさるので、写真にもとっていられるようだ。教師になられたのは小学校当時尊敬していた先生の影響によるのだそうだ。

▼森脇和子先生は浜団地から自転車で通って来られる。以前は川崎高校で講師をしていらしたが、教師としては南校が出発だったから、ご自分の性格は堅実な方だそうだ。趣味は読書。それと手芸の編好きという注釈を加えてバイオリンと答えてくださった。自分の学んだことが生かせる職業ということで教師になられたそうである。

▼能勢順先生は松城町に住んでおられる。以前は湖東高校にいらした。担当教科は書道である。南校については、明るく素直だが少しはっきりしたところがないということである。好きな言葉は恕卿と努力。ご自分の性格は情則でやさしくがまん強いそうである。趣味は書道と読書。教師になられたのは、高校時代から考えていたということである。

▼横井道雄先生は遠州浜に住んでおられる。以前は島田商業高校にいらした。担当は簿記会計や事務機械などである。南校の印象は生活のけじめがしっかりしていて好感が持てるということである。ご自分の性格はおとなしく勇気が足りないそうだ。好きな言葉は「恕」。趣味は旅行で史跡などを見てまわられるそうだ。教師になられたのは社会人と物ごとが考えられ協力しあえるからということである。

▼高橋貞朗先生は本郷町から自転車で通って来られる。担当教科は美術。公の場所で生徒を教えられるのは本校が初めてだそうで、若い年代の人間と接して美術を感覚的知らせたいためということだうまく言葉にできないのだが、このことについてはいろいろ語りたかったのである。好きな言葉は「面倒至百程」。趣味というのは、やきしゃ蒐集するものを捜すことだそうである。

▼那須田浩先生は講師として雪塚町から通ってこられる。担当教科は英語。南校の印象は「のびのびとした」。以前は信濃学園にいらした。南校の印象はあっけらかんとしているそうだ。ご自分の性格については、つまらないことに頼る癖があるということである。好きな言葉は「徒労への情熱」。趣味は、カナヅチにもかかわらず足びれなどをつけて水にもぐり、魚を突くことだそうだ。詩集行の子走があるのであるということである。

▼福島久美子先生は静岡市に住んでおられる。南校には一昨年にいらしたので知っている人もいるのではないかと思う。担当教科は家庭科である。南校には自分の高校時代と比べて静かであるという印象をもたれている。好きな言葉は「人は皆人のために」である。性格については矯揉造作と答えてくださった。趣味としまそはいかないが、今は中国の古い詩を読んでいられるそうだ。

▼山下義則先生は小松町に住んでおられる。担当教科は英語。今年初めて講師にたのまれて教壇に立たれたそうだ。南校の印象はすべて生徒が真面目であるということである。ご自分の性格については柔軟な考え方が大変大胆簡単とおっしゃっている。好きな言葉は「憲法あるところに義賃と議書。教師になられたのは大学生の時の教育実習の印象が大変強かったからなそうだ。

▼西山美行子先生は幸町に住んでおられる。週に一度おみえになって、株茶同好会の指導をしてくださっている。南校の印象については、浜松の風は毎日毎日強風なのかも知れない。担当教科は国語。ご自分の性格は、常識的なことを示カッと知らないでいたりしますが、向上心はありということである。

生徒集会
生徒の関心薄し

去る六月二十日の放課後を利用して、小笠原会長を中心とした生徒会本部と会員である私たちとの交流を深める意味で第一回の「生徒集会」が視聴覚室において開かれた。本部が先日とったアンケートによると、「生徒総会を開いたほうがよいか」という質問に対して76%もの指示があったため、新しい目論見として是非、開こうという意込みであったのだが、授業がつぶれるなどというような難問のため、生徒総会を変更し、希望者だけ出席してもらう形で生徒集会を開いたわけである。しかし76%もの指示があったことに反し、全校生徒の6%、70名ぐらいの会となってしまった。

この会は、「文化祭前夜祭について」「アンケートの返答」「本部役員の活動内容の発表」「本部への質問」と四項目に分け、報告会という形で行われた。

「前夜祭」に関しては、文化展前日は祝日（秋分の日）であり、法律に違反することになるので本年度は中止ということに決定した。その代わりとして言っては悪いが、フィナーレを最高に盛りあげたいとの文化委員長の熱い断定の言葉もあった。

「アンケートの返答」は逆に放送で流された通りであり、「役員の活動内容」は本紙一面に掲載されている。最後の「本部への質問」では、二年生の積極的な発言が目立ち、この会を盛り上げた。特に問題となったのは、なぜ全校生徒の6%しかこの会に出席しないかということで、生徒会本部にも関心さえあったし、生徒諸君の無責任さがあったのだろうということになった。確かに、生徒総会を開くことに賛成した76%に対して6%という出席は矛盾している。放課後は何かと忙しいかも知れない。しかし会員として、出席して欲しかった。たとえ自由参加であっても、寒いこの時期にもう少し活気があってもいいのではないかと思った。

部活動状況
目立つ活躍
一、二年に期待

▼サッカー部

暑い毎日であるが、汗を流して早朝練習している仲間達にお気付めざましかったサッカー部だ。以後、彼らの気迫にのまれない様注意しつつその足跡をたどってみよう。最初は両月二十九日に授業があった県大会西部予選大会だった。

本校0－2掛西
〃　3－0明在
〃　2－0浜工

対掛西戦では本意な試合ぶりだったが、その後は夏目（三年）を中心に奮戦し、浜工と並んで西部順位決定戦に進んだ。五月七日から試合は行われ、次の通りの結果を残した。

本校1－0興誠
〃　0－2浜名
〃　3－三ケ日（敗者復活）
〃　0－1浜工

浜工に負けはしたものの対浜名戦での失点を2点までとした事は県大会への大きな力となった。これらの結果、同部は西部ベスト8に進出し、県大会出場を決めた。

御存じの通りサッカー王国静岡の県大会では、五月二十九日の幕開けから連日熱試合が続いた。

本校2－0吉原工（東部三位）
〃　1－1東海大（中部二位）
〃　0－2　〃　（延長）

対東海大一戦は本校が先制点を先行、西部地区予選会がおこなわれました。結果は、男女四百メートルリレーと女子青泳が県大会出場権を得ています。現在、自由型泳者多く他の種目をやる人が少ないので、メドレーリレーは今一歩というところです。また、一年は一年になって天変地異で、また二年に一緒勝ったことがない人もいます。

現在我部では、ある人の「地獄病」の影響が一年の一部の者「友び、その気さえ見抜れてきています。しかし、そんなことに負けないで今年もがんばります。

▼剣道部

これから夏に向かって暑い日々が続く。冬でさえ防具をつけると湯のように流れる汗が、夏にはなおどうっていうことはないのだ。

三年・二年・一年の間は先輩後輩という厳たりがなくとも愉快な部だ。

▼水泳部

現在我水泳部には、男子九名・女子一一名、計二名の部員がおります。部員不足に悩んだ昨年とはうって変わって、今年は有望な一年を迎えて活動も昨年より活発になりました。

▼ソフトボール部

これからの夏に向かって、ソフトボール部の活躍を、御期待ください。

▼卓球部

卓球部は、五月の中旬、一年生の入部があり、部員は一二名になりました。

▼管弦楽部

管弦楽部は、三年数名の個性の強い部員が集まって、一つの個性となるよう目指し、そこに部員相互の理解が生まれれば幸いである。事実私の部活動の最終的目標もそこにある。

今年は才ボエも加え、より深く音楽を追求していきたい。

以上の通り、各部それぞれ目標を立てがんばっているようです。他の部からも掲載して欲しいという要望もありましたが、順を追って紹介していきたいと思っています。これからの暑い盛り各部ともがんばって欲しいと思います。

昔しのばれる民族館

我校では、修学旅行がない代わりに創立以来、野外教室を行っている。

今年で四年目を迎える。年生の磐梯野外教室も、A班（24・25・26日）が五月十三日～十六日、B班（22・23・29日）が十六日～十九日、C班（21・27・28日）が十九日～二十二日と三泊四日の日程で国立磐梯青年の家において行われた。

観光を中心とした修学旅行とは違うので、一応しっかりした目的を持っている。「野外教室を通して健全な心身の発達をはかり、規律ある生活習慣を身につけ、磐梯高原の大自然に接して活然の気を養うとともに、会津地方の文化、風俗、史跡等を見学して高校生としての教養を高める」という尊くのも感れるようなものである。

さて出発は、A・C班が午前七時三十分集合、八時発で、B班はなんと六時四十分集合、七時四分発の早さだった。東京駅までは新幹線でたま号で行ったが、車内では、新幹線に乗ってはしゃぐ者、目をつぶり物思いに耽ける者、トランプをする者などさまざまだった。そして、時間後、田舎者まる出しの人を気遣いながら、一行は東京駅から野駅へと国電を使って向かった。上野駅から郡山駅までは東北線で、新幹線の車内と同じような光景が見られた。郡山駅から青年の家までのバスの中で、B班一行は天候の悪くなる気配を感じた。B班はついていない。

そして、その日の夜はHR談話会が行われた。各クラスとも出発前にあらかじめ決めておいた催しテーマに従って話を進めていったのだが、話がとぎれたり、脱線したりして楽しく過ごしたクラスもあったようだ。

二日目は、少グループ別の名所めぐりハイキングが行われた。これも、うまく名所を回れるように出発前グループごとに立てた、計画に従って歩き回ったのだが、道が判らなくなって、コースを変更したグループも少なくなかった。だが、やはり地元の偉人である野口英世博士をたたえて建てられた野口記念館へ向かうグループが多かったようだ。年老いた母親シカさんが外国にいる博士に送った、平凡名ながらもまじりの手紙や、柱に残っている「志を得ざれば再びこの地を踏まず」という博士がナイフで彫った跡が印象的だった。昼時らしがいいという国設猪苗代スキー場へは、雪のないスキー場では仕方がない、ということで行ったグループは少なかったようだ。その日の夜は、HR別にハイキングの報告会が開かれ、各グループの歩いたコースや感想などを発表し合った。その中には、内心上がり込みの夕期待しながら、道が閉ざされ、結局、お茶やお菓子をごちそうになったりやましいグループもあった。地元の人は大変親切だということだった。しかし、少なからずも我々に冷たい態度をとる人がいた事も事実だ。というのは東北弁を笑ったり、はめを外すグループがあるからのようだ。後輩達は気をつけよう。

三日目は、五色沼ハイキングと会津若松歴史探訪ということで、バスで名所を乗り継いだ。この日は、はげしい降りの雨だったなどうだ。五色沼は名前の通り、五色の鮮かな色があった。特にコバルトブルーの沼が美しかった。その後白虎隊自決の地である飯盛山、会津武家屋敷、会津若松城（鶴ケ城）跡を会津のガイドさんと一緒に回り、楽しい思い出とおみやげの荷物をたくさん作って真夏の家へ帰った。

その日の夜のキャンドルサービスでは、各クラスとも大熱演だった。手のあまりからない歌が多かった。中には、素晴らしい劇を見せてくれたクラスもあった。班によってはフォークダンスも行われた。そしてキャンドルサービスの最後は皆でローソクを持ち、友情を誓い合うという、おごそかな雰囲気の中で終わった。そして最後の日にスポーツと準備作業をやり、青年の家を後にした。

帰りの道のりは行きと同じだったが、上野駅から東京駅への国電の車中、東京の人の視線に出会う事ができた。というのは、自分の子をひざの上にすわらせてまで、大きな荷物を持った一行の一人に席を譲ってくれたのだ。何かと都会のイメージはあるが、こんな事までしてくれて、大変ありがたかった。弊舗の研修とは、真摯、関係の無い事だが、こういう事に触れる事が、社会勉強の一つだと痛感する。

さて、それから多方、浜松へ着いたわけだが、一応、野外教室の反省としてみたいと思う。青年の家の生活によって、規律ある生活習慣を身につけたし、大自然に接することもできた。と、だいたい目的の中ではあるが、十分果たせたと思うが、会津地方の文化、風俗、史跡の見学となると、出発前にしっかりと下調べしていった人が少なく、せっかくの見学の効果を半分にしてしまった事が悔やまれる。しかしクラスに温情感の生まれ、クラスの雰囲気が生まれたのは、一つの野外教室の最大の成果があったなと気がする。

取材日記
バス通つらい

某月某日

先日、一年生は某団練へ行った。この訓練の中、我々新聞部員は数少ない自由時間を利用して取材に出かけた。あたりを見回すと、トレーニングウェアを着につけ練習をしているハンド部員を目にした。汗を流して練習に打ち込む姿は誠に美しいものであるが、学校生活を離れた今、この光景を目にする者は思いもよらぬことだった。我々は通勤部の厳しさを改めて感じ、又感心させられた。

生徒会は何であるか、生徒手帳の生徒会員約、第一章の第一条が答えてくれる。要約すれば、会員の自主的活動により、個性を伸ばし、人格を高め、社会機関の有能な構成員となって、明朗、勤勉の精神を養成することである。

この会に参加し取材して感じたことは、生徒諸君が目ざめてほしいということだ。南高生徒会は南高生だけのものだから。

某月某日

訓練へ行った。この訓練の中間テストも二日目を終え残すところ二日となった。皆早く帰宅しようと急ぐが、バスを待つ列は長く続いてしまう。私が清掃を終え来た時は列が三十M程者の人の列は絶まない。その間に自転車通学者が次々と帰っていく。ところが次のバスが一向に来ない。かなぶん、うずうずする。勉強したいのだろうかそのうちに雨さえ降ってくる。時は過ぎる。次のバスが来た時はもう一時になろうとしていた。

とを目的とする。」ということである。そのために、本部では覚見の提議、そして今回のような会を、回、二回と押進めて行きたいとのことであった。こうして約一時間半後、熱気を残してこの会は幕を閉じた。

この会に参加し取材して感じたことは、生徒諸君が目ざめてほしいということだ。南高生徒会は南高生だけのものだから。

惰性的な遠足
改善を願う

五月十六日の火曜日、三年生の遠足が実施された。目的地は「東山動物園」これは各クラスからの意見に基づき決定されたものである。

東山動物園はたいへん広い。恥ずかしながら、わが浜松市営動物園とほぼ同じ物にならない。当然の事ながら動物の種類も数も多い。動物園に行っては見る事もできない動物もある歌いる。その中でもやはり最も人気があったのはゴリラだった。というものの彼も、ゴロリと寝そべって「平和」そのもの。

併設されている遊園地へ行ってみる。料金は一律金五十円也。ジェット・コースター、観覧車など一通りそろっていたが、いずれも小規模で迫力に欠けるが、それでも皆、結構楽しんでいたようだった。

が、しかし、「今度の遠足はおもしろくなかった」という声が圧倒的であった。

三年は、過去、年の内、御殿場と磐梯をきびしい集団訓練を受けていた。その時の生き生きとしていた情の顔に比べて、何と色けていた事か。

諸人曰く

「ただ疲れるだけ」

「時間その他の束縛がはなはだしい」

更には「遠足などやめるべきだ」

もしろくなかった」という声が圧倒的であった。

三年は、過去、年の内、御殿場と磐梯をきびしい集団訓練を受けていた。その時の生き生きとしていた情の顔に比べて、何と色けていた事か。

諸人曰く

「ただ疲れるだけ」

「時間その他の束縛がはなはだしい」

更には「遠足などやめるべきだ」

という声も一部では上がっている。

ファイト！サッカー部

編集後記

若葉の緑が目にしみる、すがすがしい季節となりました。わが南高校でも、一大行事の一つ「研修旅行」を無事に終えることができ南高校生としての自覚をもって、みな勉強に部活に、はりきっています。四月当初、却生徒で中学生のようであった新一年生も、今は緊張も解け、のびのびと楽しい毎日を送っているようです。

我新聞部も、一年生中心に新聞作成に励み、あわただしい毎日でした。そして、これが最後に二年生の先輩達は、受験に全力を捧じなければならない時となりました。残った私達もより一層良い新聞を作るよう努力致したいと思います。

本来、今回は最多面数の四面なのですが、次号は五十号で特集を組みたいと思います。ですから、今回は一面になってしまいました。急な変更を、おわび致します。

さて、次号は待望の五十号に到ります。今からまた次号に向けて取材へと奔走しなければなりません。まだまだ未熟な私達ですが、少しでも進歩し優れた作品を作り上げていきたいと思います。

今回は、一面になってしまいました急な変更を、おわび致します。

スポーツバック
リックサックの御用命は
浜松駅前　広小路通り
TEL ㊷ 6015　辻梅

額縁・絵画材料・デザイン材料
株式会社 彩画堂
本店　浜松連尺
TEL 54—3845(代)・64—1975
遠鉄名店ビル4階　TEL 53—6348
松菱百貨店7階　TEL 55—3281
新静岡センター　TEL 55—3856
広沢配送センター　TEL 53—8200
岡崎名鉄サンリバー　TEL 21—1572

10周年
「この秋生まれ変わる」
遠鉄名店ビル
浜松市田町TEL〈0534〉54—3131

ご用意いかが
夏開幕!!
交通公社では皆様方の
レジャーライフに合った旅を
とりそろえております
FAMILY
お問いあわせお申し込みは
衣食住・旅
日本交通公社
TEL〈0534〉㊸2111(代表)

南高校制服専門
女子スーツ・ブラウス・ネクタイ
男子学生服・ワイシャツ・替ズボン
いつでも御利用下さい
制服の
クリバヤシ
浜松市下池川町23—3
TEL (71) 7295

浜松—磐田—袋井—藤枝を音でむすぶ
レコード
楽器
イケヤ
本店　浜松田町（有楽街）
TEL 52—5151
鍛冶町店／遠鉄名店ビル店／磐田店／袋井店／藤枝店／ユニー浜店